

春

SYUNJUSAI

熊本県立大学・学報

2002.3

VOL.17

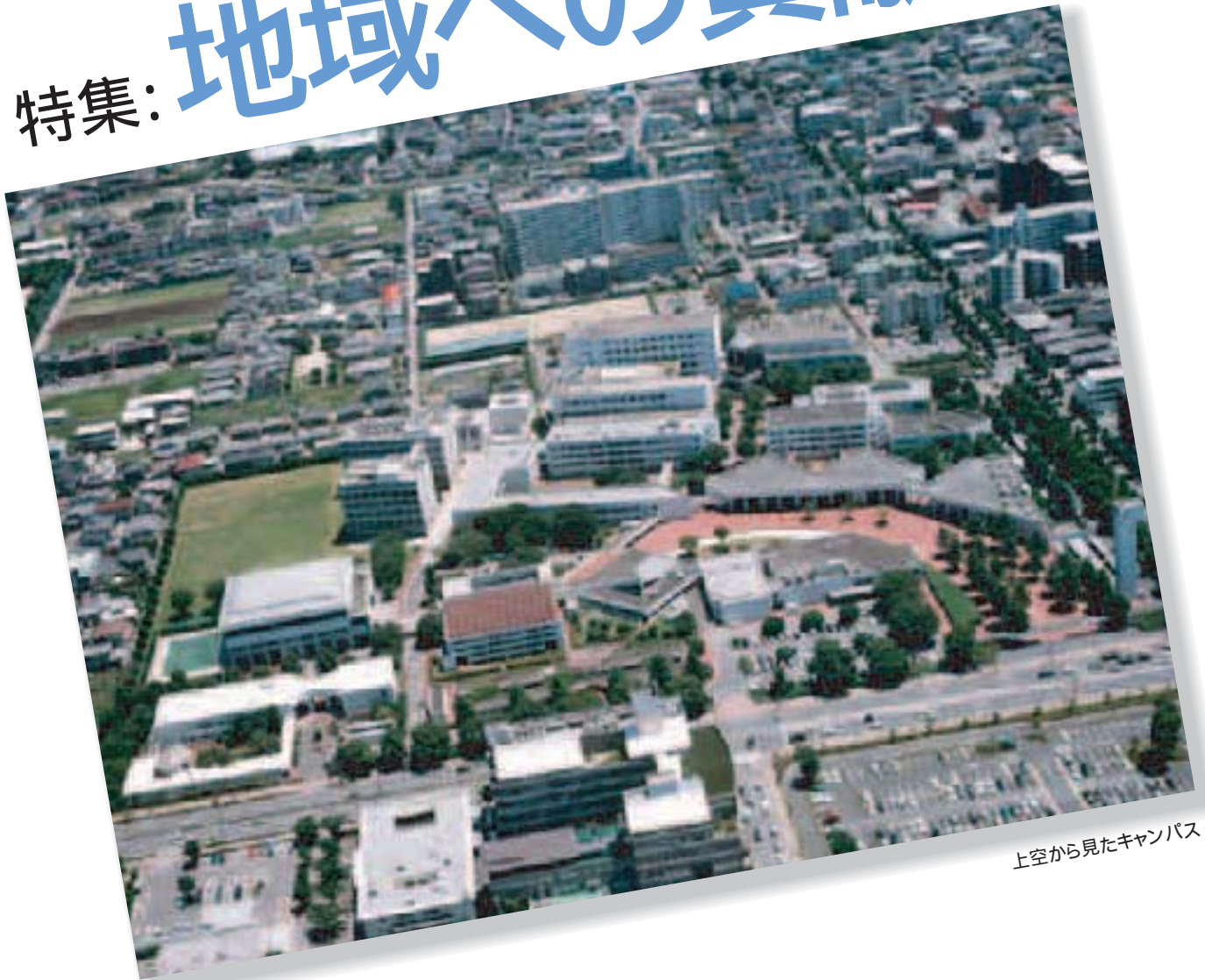
秋

春秋彩とは

「万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集：地域への貢献



上空から見たキャンパス

Contents

- | | | | |
|---|--------------|-----|--------------------------------|
| 1 | 特集：地域への貢献 | 7 | 学生の声
VOICE |
| 5 | こんな研究しています。 | 7.8 | 卒業生からのメッセージ
Message for you |
| 6 | 留学体験
随筆 | 8 | サークル便り |
| | 教員の紹介
我が師 | 9 | CAMPUS NEWS |
| | | 14 | 学長の言葉
EPILOGUE |

特集 地域への貢献

本学は、熊本県が設置する唯一の大学として、理念の一つである「地域性の重視」のもと、大学の様々な機能に応じて地域への貢献を図っています。ここで、その具体例を紹介いたします。

生涯学習

【授業公開講座】

大学の正規の授業を一般にも公開し、半年又は1年間継続して学生と一緒に受講できる。

受講料(1科目につき)

半年間 5,000円

1年間 10,000円

平成13年度実績

外国語 文学 環境 社会学など計88科目を開講。



【地域講演会】

本学の教員を県内の市町村に派遣し、地域住民を対象に身近なテーマについて講演を行う。年3回程度。参加料無料。

平成13年度実績

鹿本地区(植木町)・菊池地区(菊池市)・天草地区(五和町)の3地区で実施。



【公開講演会】

国内外の著名な専門家や研究者を招へいし、本学の教育と関連のあるテーマについて学内で講演を行う。一般にも公開。年2回程度。参加料無料。

平成13年度実績

「こみ問題とライフスタイル」、「江戸文化再考」のテーマで講演会を実施。



行政連携

【市町村カレッジ】

分権時代の市町村職員に求められる専門的な知識の取得を目指し、県内市町村職員を対象とした本学の教員による特別課題研修を実施する。

平成13年度実績

「政策法務入門講座」を2回実施

組織整備

【地域アカデミーの設置】

「地域貢献に関する情報発信」と「大学と地域の連携」のための窓口を設置する。

熊本県立大学地域アカデミーの主な業務内容

産学連携	行政連携	生涯学習
<ul style="list-style-type: none"> ・試験研究機関との共同研究 ・教育研究奨励寄附金の受け入れ ・企業からの受託研究 共同研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会委員等紹介 ・行政職員研修(市町村カレッジ) ・行政の政策・法務・IT等コンサルtant ・行政からの受託研究 共同研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開講座 ・公開講演会 ・地域講演会 ・社会人を対象とした特別プログラム

施設開放

【附属図書館開放】

県内居住の18歳以上の人や県内事業所に勤務する人であれば、本学が発行する「特別閲覧証」により、館内で自由に閲覧できる。なお、平成14年5月からは貸し出しも行う。

(対象者は閲覧と同じ)



本学では、前頁で紹介した取り組みの他、地域の抱える課題の調査研究を行い、その研究成果を地域に還元するといった「研究活動を通じた地域貢献」を積極的に進めています。その中から、環境共生学部の堤教授が取り組んでいる研究内容を紹介します。

有明海の異変の解明に取り組む

環境共生学部

生態・環境資源学専攻

教授 堤

裕昭（海洋生態学）

「豊饒の海」と言われた有明海の生態系に、近年、大きな異変が生じています。年間に十万吨を越える水揚げを誇ったアサリ、ハマグリ、タイラギなどの貝を獲る漁業は、干潟で貝が育たなくなったり、夏に沖合の海底で酸素が少なくなる現象によって、この二十一年間に衰退しました。赤潮も頻発し、ノリ養殖漁業にも影響を与えています。今、有明海の生態系で一体何が起きているのか？その異変を捉えて、原因を解明することが、急務の課題となっています。

私の研究室では、6年前から、熊本市の緑川の河口に広がる砂の干潟で、アサリの生態の研究を行ってきました。その結果、アサリが獲れなくなったの

は、生まれたてのアサリの稚貝が干潟では育っていないことがわかってきました。干潟で繁殖に成功しても、子孫が育たなければ、その集団が寿命とともに姿を消すことは当然のことです。

ところが、その干潟の上に、沖合の海底から取った砂を撒くと、いろいろな貝やゴカイがよく育つようになり、1年もするとまるで別世界が出来上がります。干潟は生きていました！でも、砂の質に何か問題があるようです。それを解決できれば、明日にも干潟の生態系は蘇ります。

干潟の生態系の研究を進めていくうちに、今度は、沖合から大量のプランクトンが押し寄せてきました。赤潮です。夏に起きる赤潮は魚介類に有毒なものが含まれています。冬に起きる赤潮はノリ養殖に大きな影響を与えます。でも、有明海は一日の潮汐による海面の変動が4〜6mにもなり、そのたびに外海の新鮮な海水が流れ

込んできます。そのため、水質が保たれ、問題を起こすような赤潮の発生は少ないと考えられてきました。

なぜか、この十年は、それまでとは状況が違っているようです。有明海で何が起きているのか、昨年からその理由を求めて、漁船をチャーターし、水質の観測に有明海を走り回っています。水温、塩分、酸素量、植物プランクトン量、植物プランクトンの繁殖に必要な栄養塩の濃度などを観測して、どのようにして赤潮が起きているのかを捉え、そこから、何らかの原因を見いだすことを試んでいます。

広大な干潟を擁する有明海は、きわめて生物生産性の高い海です。その海の生産性を保つことは、環境の保全にとどまらず、地域の漁業や食品加工などの産業を支え、豊かな地域社会を維持していくために不可欠です。有明海の研究を通して、地域社会の発展に貢献していきたいと願っています。



地域への貢献
Special Edition

【本学での研究状況】

本学では、各種研究活動を行うにあたり、設置者である熊本県や文部科学省等からの支援を得ています。また、平成12年度からは外部資金の受け入れ体制を整え、民間企業等から寄附金を得ています。

熊本県立大学地域貢献研究事業 採択実績(平成13年度)

地域振興支援研究(文化、自然、社会等の領域における地域振興の一助となる研究)

氏名	研究テーマ
稲川 順一(文学部教授)	熊本県方言解説及び同辞典のホームページ作成
弘谷 多喜夫(文学部教授)	台湾と熊本の戦前・戦後における教育交流の歴史と今後の施策
中島 熙八郎(環境共生学部教授)	棚田を持つ農山村における生活環境に関する研究
堤 裕昭(環境共生学部教授)	有明海の干潟域の底質と貝類の生残について
荒木 昭次郎(総合管理学部教授)	熊本県下の市町村における行政運営の効率化に関する調査研究 下記参照
赤松 秀岳(総合管理学部教授)	市町村職員の政策法務能力を向上させるための方策に関する研究

学術高度化研究(学術の高度化に寄与し、ひいては本県の発展に寄与し得る優れた着想を持つ基礎的研究および特色ある研究を格段に発展させ得る研究)

氏名	研究テーマ
篠原 亮太(環境共生学部教授)	脱臭・凝集機能を有するd-軌道金属イオン類水溶液の産業廃棄物処理への応用
古賀 実(環境共生学部教授)	底泥中微量有機スズ化合物の迅速定量方法の開発
松崎 弘美(環境共生学部講師)	食品保存における乳酸菌の利用

設置者からの依頼研究(設置者である熊本県の各所属が持つ政策課題等の研究)

氏名	研究テーマ	依頼元
村上 良知(環境共生学部教授)	ユニバーサル・デザインによる建築計画のガイドライン策定の可能性の検討	建築課
村上 良知(環境共生学部教授)	熊本県下の既存特別養護老人ホームの小規模改修手法の検討	高齢保健福祉課
鈴木 公(環境共生学部教授)	子どもの生活習慣が身体面・精神面へ与える影響について	宇城地域振興局
松添 直隆(環境共生学部助教授)	トマト用の土壌病害虫抵抗性を有する台木植物の育成について	農業研究センター
白土 英樹(環境共生学部助教授)	芦北地方特産のサラダ用タマネギの辛味成分の分析と機能性について	芦北地域振興局
張 代洲(環境共生学部講師)	黄砂が大気中の浮遊粒子状物質に与える影響について 下記参照	環境保全課・保健環境科学研究所
宮園 博光(総合管理学部助教授)	障害者に関するデータ、サービス等の一元的管理の方法について	宇城地域振興局

熊本県下の市町村における行政運営の効率化に関する調査研究

総合管理学部

教授 荒木昭次郎
 教授 渡邊 榮文
 教授 中宮 光隆
 助教授 森 美智代
 助教授 石森 久広
 助教授 宮園 博光

黄砂が大気中の浮遊粒子状物質(SPM)に与える影響について

環境共生学部

講師 張 代洲

この研究は、総合管理学部のスタッフ6名により、平成13～15年の3年間で行うこととしている。熊本県内の94市町村を念頭に置き、地方分権改革が推進されていく中で、市町村経営はいかにあるべきかを、「効率性」と「自治性」に焦点を当てながら多角的に分析し、これからの行政運営の方向性を探ることを目的としている。例えば、行政運営に企業経営及び企業会計原則の導入は可能かどうか、あるいは行政の住民へのサービス及び行政運営の合理化に情報技術(IT)の普及がどのような役割を果たすことになるのかなど、各スタッフの専門分野の立場から分析する。これを達成するために市町村運営に関する資料収集やヒアリング調査を行うとともに、内外との比較分析を行い、活発な議論を通して一定の効率的行政運営の方向を提示していきたい。

黄砂現象は、アジア大陸砂漠地帯や黄土地帯で舞い上げられた多量の砂塵が偏西風により風下方向に拡散して、到着地点の天空を覆って大気中の浮遊粒子状物質(略称・SPM)の濃度が著しく大きくなる現象です。熊本県において、SPMの環境基準の達成状況には達成率が非常に低い年があります。特に毎年の春に達成しない日は頻繁に出ます。達成出来ない原因の一つは、黄砂などの自然現象が影響していることが経験的に分かっています。しかし、これまで特に原因究明の調査は行われていません。この研究では、県保健環境科学研究所と協力して、県内においてSPMが環境基準を超える時に巨視的・微視的な調査を行います。巨視的な調査をとおしてSPMが環境基準を超える主因になる粒子状物質の大きさ範囲とその範囲の粒子状物質の主な組成を究明します。微視的な調査をとおして環境基準を超える主因になる粒子状物質の実態を個々レベルで明らかにします。



県立大学構内において採集された黄砂時期の大気中の浮遊粒子(A:海塩;B:砂と海塩の混合)

科学研究費補助金 採択実績(平成13年度)

文部科学省

氏名	研究テーマ
有菌 幸司(環境共生学部教授)	水環境汚染評価のための新バイオマーカー
松野 了二(総合管理学部教授)	語学教育用ソフトウェア部品の開発とその活用に関する研究

日本学術振興会

氏名	研究テーマ
山田 俊(文学部助教授)	唐宋道教の心性思想研究
山崎 健司(文学部助教授)	古代日本文学における漢語の受容
大岡 敏昭(環境共生学部教授)	日本の城下町における近世近代の都市住宅に関する研究
大和田 紘(環境共生学部教授)	内湾近低層における微生物生産に関する研究～隔離実験的による微生物ループの検証～
松添 直隆(環境共生学部助教授)	トマトの土壌伝染性病・虫害の回避を目的にしたナス植物の台木利用に関する研究
大橋 好光(環境共生学部助教授)	阪神淡路大震災における木造建物の破壊モードと入力地震動の関係
南 久則(環境共生学部助教授)	培養細胞を用いたアレルギーの腸管透過性と通過経路に関する研究
山田 俊弘(環境共生学部講師)	東南アジア熱帯域におけるアオギリ科植物の比較生態学的研究～熱帯雨林での植物のニッチ分割～
李 麗(環境共生学部講師)	木造建築構造用木・鋼ハイブリッド耐力壁に関する実験的研究
辻原 万規彦(環境共生学部講師)	戦前期の南洋群島における建築物にみられる室内環境調整手法と気候風土に関する研究
赤星 亜朱香(環境共生学部助手)	キシリトールのヒトにおける抗アレルギー作用：唾液IgAの分泌刺激

外部資金 受け入れ実績(平成13年度)

受託研究

委託者	研究担当者	研究テーマ
厚生労働省国立公衆衛生院	有菌 幸司(環境共生学部教授)	人についてのデータの解析とリスクの不確実性評価
くまもとテクノ産業財団	松添 直隆(環境共生学部助教授)	ナス果実の着色、味覚成分及び機能成分に関する研究

教育研究奨励寄附金

寄附者	研究担当者	研究テーマ
(財)旗影会	菅野 道廣(学長)	共役リノール酸の肥満防止機能に関する研究
(株)タクマ	古賀 実(環境共生学部教授)	環境中有害化学物質の物理化学的処理
次世代理立システム研究会	深津 和彦(環境共生学部教授)	環境汚染微量物質が小生体生物に与える影響
(株)水環境科学研究所	篠原 亮太(環境共生学部教授)	海水及び河川水での電気的浄化法に関する研究
(株)環境調査研究所	堤 裕昭(環境共生学部教授)	干潟の底生生物の生態
(株)環境調査研究所	堤 裕昭(環境共生学部教授)	有明海干潟域の底生生物相
(財)九州環境管理協会	堤 裕昭(環境共生学部教授)	博多湾湾奥部の海底環境の改善
東和科学(株)	有菌 幸司(環境共生学部教授)	酵母を用いた環境化学物質の評価
株式会社みなまた環境テクノセンター	有菌 幸司(環境共生学部教授)	キンギョ及びメダカを用いた内分泌攪乱評価手法への応用
ジャパンドームハウス(株)	松添 直隆(環境共生学部助教授)	ドレンベッドによる野菜のハウス栽培研究
(財)日本建築センター	大橋 好光(環境共生学部助教授)	リサイクル木造住宅の開発に関する研究
(財)日本建築センター	大橋 好光(環境共生学部助教授)	リユース・リサイクル可能な木造住宅の開発研究
住友林業(株)筑波研究所	大橋 好光(環境共生学部助教授)	住宅の長寿命化を図るための構造劣化診断技術
味の素(株)	南 久則(環境共生学部助教授)	食物アレルギーの体内侵入に関する基礎研究
味の素(株)	南 久則(環境共生学部助教授)	クローン病に対する成分栄養剤の効果に関する研究
(社)鋼材倶楽部	李 麗(環境共生学部講師)	木造建築構造用鋼・木ハイブリッド耐震壁に関する研究
ピーエス(株)	辻原 万規彦(環境共生学部講師)	リニューアブルされた環境共生型小規模オフィスビルにおける室内気候形成メカニズムに関する研究
神村鉄工(株)	辻原 万規彦(環境共生学部講師)	遮光網が全蓋式アーケード内部の温熱環境に与える影響
ホシサン(株)	松崎 弘美(環境共生学部講師)	抗菌性乳酸菌スターターカルチャーによる麹作製と味噌醸造

こんな研究しています。

文学部

インド経由イギリス行き多目的便



大英帝国のごった煮の入れもの:大英博物館

もともと中央アジアやインドの神話や伝説への興味から出発しました。19世紀にイギリスで昔話や伝説の研究収集が始まりますが、インドでも好古趣味を持った植民地官僚、宣教師、その家族らは、召使や担当地域の人々から集めた話や、サンスクリット文献を英訳してイギリスで出版しました。そのいくつかは現在でも再版されています。このような本を手にした当時のイギリスの読者は何を期待し、何を楽しんだのでしょうか。これらの資料と出会って私の関心はむしろ、イギリスに移りました。イギリス人はインドについて、どんなイメージを抱き、それはどのように変化していったのか？

旅行記には何と描かれ、小説や絵画には？。疑問はどんどん増えていきました。ホームズQ、四つの署名」事件で、インドの財宝はテムズ川に沈み、小公女」の父親はインドで金持ちになりました。『秘密の花園』の主人公の両親はインドで急死し、シャングリラ」はヒマラヤ山中にありました。正体不明の富と突然の死と不老不死。どんな事実と妄想が反映しているのでしょうか。謎を解く鍵は、政治やファッション、経済や絵入新聞、進化論や神秘主義、あらゆるジャンルに散らばって、新しい発見と疑問に導いてくれます。探索の旅は楽しくて、まるで広大な博物館の中で迷子になったようです。



文学部
講師 難波 美和子
(比較文学)

環境 共生学部

微生物バイオテクノロジーで食と環境を考える



環境共生学部
講師 松崎 弘美
(食品バイオ工学)

21世紀はバイオテクノロジーの時代と言われており、私は、微生物が持っているパワーを食品や環境に役立てていきたいと考えています。乳酸菌は私たちの腸内にも存在する善玉菌ですが、食品製造に目を向けるとヨーグルト、チーズ、醤油、味噌、酒、漬物などの伝統的発酵食品の製造に利用され食品の保存性を高めています。ある種の乳酸菌が生産するタンパク質性の抗菌物質(バクテリオシン)は、食中毒細菌などの食品有害菌の生育を阻害するので、これを安全な天然食品保存料として利用すべく研究しています。

また、微生物がつくるプラスチックの研究も行っています。化学合成プラスチックの多くは自然環境中で分解できないため、様々な環境問題を引き起こしていますが、微生物がつくるプラスチックは、合成プラスチックと同様な性質を有し、自然界に存在する微生物によって完全に分解されるので、グリーンプラスチックとも呼ばれる環境調和型の材料です。これは、使い捨て製品や食品トレーに使用できず、生体適合性も有していますので手術用の縫合糸などへも利用できます。そこで、遺伝子工学などのバイオテクノロジー技術を屈指して素材の優れたものをつくりだすなど実用化に向けた研究をしています。そして、今後も微生物およびバイオテクノロジーを利用し、食・健康・環境に役立つ研究を行っていきたいと考えています。

21世紀はバイオテクノロジーの時代と言われており、私は、微生物が持っているパワーを食品や環境に役立てていきたいと考えています。乳酸菌は私たちの腸内にも存在する善玉菌ですが、食品製造に目を向けるとヨーグルト、チーズ、醤油、味噌、酒、漬物などの伝統的発酵食品の製造に利用され食品の保存性を高めています。ある種の乳酸菌が生産するタンパク質性の抗菌物質(バクテリオシン)は、食中毒細菌などの食品有害菌の生育を阻害するので、これを安全な天然食品保存料として利用すべく研究しています。

生分解性プラスチックの分解試験



3週間後 6週間後

総合 管理学部

循環型社会と企業経営のあり方

今世紀は、「環境の世紀」といわれるように、20世紀文明としての大量生産、大量消費、大量廃棄から、新しいパラダイムとしての省エネルギー、省資源、循環代謝型、低環境負荷型へ転換していくために、われわれの価値観、経済社会制度および生活様式などを改革して、「サステイナブルな循環型社会」を実現していくことが重要な課題になっています。

このような課題に因應するために、平成13年度から15年度まで、文部科学省の「先導的研究」として、国連大学の鈴木副学長を研究代表者に、鹿大を中心に、東工大、豊橋技術科学大など、自然科学と人文・社会科学の研究者による「循環型社会システムの屋久島モデルの構築」のサブ責任者として、「循環型経済社会システムの形成」の研究に取り組んでいます。

この研究では、「成長・資源および環境のトリレンマ」の問題解決をめざして、先進的な最適モデルである屋久島を対象に、循環型経済社会の理念と企業経営のあり方、とりわけ、生産者責任など、企業経営の果たすべき役割を明らかにし、その実現のための技法、方策およびシステムなどについての提言を行い、それらの研究成果を広く国内外に発信する予定です。



総合管理学部
教授 松本 譲
(経営学)

随筆

UCSDでの研修を終えて

文学部 講師 村尾 治彦（言語学）

（2000年9月から2001年8月までアメリカで留学研修）

1年間カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）の言語学科に、客員研究員として滞在してきました。UCSDは美しい海岸で有名なラホヤにあります。周りは自然に囲まれ、気候もよく、研究環境に恵まれた大学です。キャンパスは小高い丘の上であり、言語学科のある建物はその丘を登りきった所にあります。さらにその奥にずっと進んでいくと、美しいラホヤの海岸が開けてきます。研修中は、ロナルド・ラネカー博士の認知文法理論を研究するのが専ら目的でした。認知文法理論は、人間の認知システムとして最も妥当な文法理論の構築を目指しています。UCSDは、神経科学、心理学、脳科学等を中心に、脳と心のメカニズムを解明しようとする認知科学において、世界的に優秀な研究者が集まる大学です。このような環境の中で、文法に関わる諸原理を一般認知機構に還元しようとする認知文法理論が生まれたのも分かるような気がしました。この理論は現在最も注目されている文法理論の一つであるため、ラネカー博士の講義では、世界各地から集まってくる客員研究員が受講者の大半を占めていたのが印象的でした。年中ほとんど雨の降ることのない、快晴の続く温暖な気候、充実した研究施設、先端の研究成果が集まる大学、このような恵まれた環境の中で学問をやっている者にとって至福の喜びを感じる一年であったと思います。



UCSDの図書館にて

東洋文明の源流中国、そして偉大な哲人たち

環境共生学部 教授 大岡 敏昭（住宅計画学）

（2000年9月から12月まで中国で留学研修）

私は古代の中国住宅と日本住宅の関連性を調べるために4か月中国に留学した。4世紀から13世紀までの日本文化は中国文化圏の内にあった。住宅についても当初は中国住宅を模倣したが、10世紀以降次第に日本独特の住宅様式を創造するに至り、19紀まで発展し続けた。その背景に最澄、空海、道元らによる思想と民衆化がある。彼らは身を省みず、仏教、儒教などの中国文化を学び、日本風土の中で新たな文化思想を創造した偉大な哲人たちであった。

知力、気力において彼らの足元にも及ばないが、西安、洛陽、太原、大同、敦煌、北京、上海、杭州、寧波の都市を訪問し、古代住宅建築を調べた。仮説的の中し、中国住宅は3000年前から変わらないとする学説は誤りであった。中国文化は秦漢、唐宋、明清で大きく異なり、和辻哲郎が指摘したように、住宅様式も仏教と儒教の攻め合いの中で異なっていたのである。

シルクロードに沿って走る敦煌への列車は、戈壁砂漠の河西回廊の真つ只中に入った。車中に流れる北国の春を中国友人と歌いながら車窓に眼をやると、遙か遠方に明代の西端の古城嘉峪関がみえた。砂漠の地平に孤立するその高い城壁は、小説「敦煌」の主人公趙行得が愛した回鶻の王女が甘州城の上から身を投じた悲劇の情景を彷彿させるものであった。



明代の古城、嘉峪関

我が師

仏の荒木先生

総合管理学部総合管理学科3年
宮部 逸人



右端が宮部君

私たち荒木ゼミは、荒木昭次郎先生を中心に、男子学生8人、女子学生1人と非常に男性密度が高く、汗臭く、また大変勉学に勤しみやすい環境のもと、日夜地方自治について熱く語っています。厳密には先生が1人で熱く語られております。

荒木先生といいますと、地方自治について語られたら、右に出るものはない、日本でも5本の指に入るほどの地方自治の使い手だと私は先輩から聞いております（まじっすか）。しかし、その正体は謎に包まれています。

私個人として、荒木先生のすばらしいと思う点としては、このようなかなりの実力者であられるにもかかわらず、少しも驕ることなく、私達に様々なことを熱心に教えてくれます。また、ニコニコされているその姿からは、時に仏の風格さえ感じさせてくれます。そして先生の仏の語りにより、ある時は私達を極楽浄土の眠りへと誘ってくれます。

このようならばらしい力を持つておられる荒木先生のもとで、日々の有り難いお言葉を胸に努力を重ねていきたいと思う今日この頃であります。



総合管理学部
教授 荒木昭次郎
（地方自治論）

「道」をどうぞよろしく。

道づくり委員会 Arch 松岡沙織(生活科学部生活環境学科4年)



白垂の建物と赤茶のタイルに囲まれた県立大学に、私たちはちよつと異質な「道」をつくりました(この春秋彩が出るころには完成しているはず?)。2~4年生はすでにご存知だと思いますが、1年生は古い方の環境共生学部棟の中庭を見てみてください。

この道づくりは環境共生学部の中島先生と会計課により提案され、生活環境学科2000年度卒の学生の呼びかけで始まりました。

「ただ広い中庭がぜんぜん使われていなくてもったいない。」

「新しい環境共生学部棟が孤立しないような工夫がほしい。」

などの意見から道をつくるに至り、道づくりしたい人が自由に参加できるための窓口として、Archを結成しました。そして、どうせなら環境共生学部の味を出し、自分たちにしかできないものを「道」をつくりたい



と思い、1年間の紆余曲折を経た結果、枕木の道を設計しました。枕木を道に使うというのは結構一般的に見られますが、ここまで長いものは全国探しても(世界を探しても?)ないと思います。

工事が始まったのは去年の10月。道の輪郭に沿って穴を掘り、砂利と砂を敷き詰め、その上に枕木を敷いています。毎週土日を利用して3~12人が集まり作業を進めてきました。一番大変なのが枕木を敷く作業です。1本70~80kgもある枕木を1本ずつ丁寧に水平になるように敷き詰めます。それが250本あまり!気の遠くなるような作業ですが、だんだん道が姿をあらわしていくのはなんともしえない感動でした。



約2年の時を経て、道はとりあえず完成にこぎつけますが、どのように使うかはこれからの皆さんで自由にしてほしいと思います。散歩道として使ってもよし、白垂祭のときに店を並べるもよし、ベンチを作って溜まり場にするもよし。また、今は平らな道でも、木は生き物で、時間が経つと反ったりよじれたりして、デコボコが出てくると思います。そんな変化もこれからの皆さんで手直しをしながら未永くかわいがってください。

ちなみに2002年度も少し工事が残っています。少しでも興味がある人はどしどし参加してください。

卒業生からのメッセージ

Message for you



中段右端が坂梨さん

坂梨 綾

平成13年3月卒(文学部日本語日本文学科)
九州産業交通(株) 熊本交通センターホテル
ホテル営業部 勤務

「今やるべき事は……」

毎日、お客様の応対や日常処理に追われて1日が過ぎるのが早く感じられます。今春、九州産業交通に入社してから1年、「もう1年!」と自分でも驚いています。

最初の配属先は、ホテル営業部でした。希望していた所ではなかったため、初めのうちは少し悩みました。しかし、やりがいや面白さを見出せてからは、上司や先輩からノウハウを学ぼうと思えるようになりました。

学生時代は、色々な分野での活動をするように心がけていました。県の企画への参加、ボランティア活動、アルバイト、海外研修…。学外、異世代との交流が、社会に出たからとも役に立っています。

ホテルには、様々なお客様がお見えになります。まさに100人100通りの対応が求められます。そういった時に学生時代の経験が活かされているのでは、と思っています。

皆さんも、「今やるべき事は……」と考えて学生時代を過ごしてみたいかがでしょうか?自分がどんな人間になりたいのか、ヒントが得られると思います。

マンドリン部



マンドリンは、イタリアの弦楽器です。弦の数は八本で、同じ高さの音を出す弦が二本ずつあり、二つの同音弦を一度に弾くので、強くてきめ細やかな音ができます。

演奏技法の一つであるトレモロ奏法をマスターするには少し根気がいりますが、それを乗り越えればある程度の曲はどんなものでも弾きこなすことが出来るようになります。もちろん初心者でも大歓迎。部員も大学に入ってから始めた人がほとんどです。

楽器はマンドリンの他に、マンドラにギター、ベースなどもあるのでどれでも好きな楽器を選んで演奏することが出来ます。

活動内容は学内・部内演奏会に加えて、依頼があれば学外での演奏活動も行っています。毎年夏休みの合宿では、親睦を深めながら楽しく演奏活動を行っています。

部員の数は決して多くはありませんが、みんな和気藹々と活動しています。音楽が好きな人は一度遊びに来て下さい。

ダイビング部



私たちダイビング部は現在、2年生5人(うち男1人)、1年生7人(うち男4人)の合計12人で活動しています。

基本的に毎週月曜日にミーティングを行い、前期・後期にそれぞれ4、5回程度、監督である坂田氏(NAUIインストラクター)のもとで、土曜日にブルトレ、日曜日に海洋講習を行っています。そして1年間に合宿を4回(春合宿、新歓合宿、夏合宿、冬合宿)行います。新歓合宿と冬合宿は鹿児島島の坊津で、夏合宿は奄美大島の西に位置する喜界島で、そして今年の春合宿は沖縄の久米島で行います。

水中カメラで水中の風景や魚の姿を撮り、例年白亜祭では場所をお借りして写真展を開いています。

私たちはダイビングというスポーツを通して海と自然と親しみ、そして大学の部活動を通して人間的な成長をはかり、部員全員で二つの活動に対して楽しみながら、そして全力で取り組んでいます。

卒業生からのメッセージ

Message for you

「経験を盗め!!!」

卒業して1年。大学での生活がずいぶん昔のことのようにです。

まじめだとはお世辞にも言えない学生だった私は、毎日アルバイト三昧でした。レストランや予備校、コンビニに放送局、さまざまなアルバイトを掛け持ちして、バイトと大学の往復と言っても過言ではない生活でした。めまぐるしい毎日でしたが、そこで様々な人に会うことができました。その事が今、役立つています。

たくさん経験しなさい、とよく言われます。確かに経験することは大切なことです。取材をしていて、自分の知らない場所、状況、考え方に触れた時、記事にするのに苦労します。だけど一度経験していれば、理解できるはず。経験がモノをいいます。これは仕事や生活によらず、誰にでも言えることです。それでも自分で経験するには限度があります。だからみなさん、できるだけ多くの人と会話して下さい。話をすることで、自分とは違う感性、考え方、文化で物事を見て下さい。そしてそこから多くの経験を盗み取って下さい。話を聞いているだけで理解度もずいぶん違ってきます。

あなたの窮地を救ってくれるのは、もしかしたら先生の経験かもしれません。さあ、思い切った話し掛けてみましょう。



中央が河村さん

河村 薫子

平成13年3月卒(総合管理学部総合管理学科)
KKT熊本県民テレビ 報道制作部 勤務

就職に関するお知らせ

ここ数年、非常に厳しい就職状況が続いている中、本学では学生が少しでも満足度の高い就職活動ができるように、各段階に応じて様々な就職支援を行っております。その中でも特に好評なのが次のような特別講座です。

【簿記検定講座】

企業の財務状況を把握し帳簿管理を行う、あらゆる企業で評価の高い資格の取得に向けて実施しています。

【マスコミ講座】

テレビ局・新聞社等から講師を招き、マスコミに就職を希望する学生を徹底指導します。

【宅地建物取引主任者講座】

不動産取引に関する専門的知識を持ち、金融・不動産業界などの企業で有力な資格の取得に向けて実施しています。

【ベンチャー・ビジネス講座】

ベンチャー企業等から講師を招き、起業化に興味を持つ学生を指導、アドバイスします。

【ファイナンシャル・プランナー養成講座】

個人資産の適切な運用の提案といった総合的なコンサルティングを行う資格の取得に向けて実施しています。

【情報処理技術者試験対策講座】

国家資格「ビジネス・アドミニストラータ」の取得に向け、エンドユーザ部門の情報化リーダーを養成しています。

【公務員・教員試験対策講座】

ビデオ教材や教員による直接指導によって、国家公務員や地方公務員試験合格へ向けに徹底指導します。

詳しくは学生課までお尋ね下さい。

就職支援スケジュール(平成13年度の場合)

3年次	企業の動き	支援事業	学生の動き	
7月		就職ガイダンス 公務員ガイダンス 教員ガイダンス 職業適性検査	自己分析開始	
10月	2003年3月卒採用計画が公開(一部大手)	公務員講座説明会 公務員最終合格発表会 就職準備セミナー(30名自己分析) エントリーシート、履歴書添削・指導開始 教員講座説明会、開講	就職情報会社(リクナビ・毎コなど)へのインターネット登録開始	
11月	一部企業において選考スタート	就職準備セミナー インターネット利用法、業種・職種研究 4年次就職活動体験発表「民間」 公務員ガイダンス「OB・OG」 就職準備セミナー「SPI対策」 就職準備セミナー「エントリー対策」 公務員講座開講	個別企業説明会申込開始 エントリーシート記入・提出スタート	
12月	個別企業説明会スタート 合同企業説明会スタート 大手企業採用スタート	就職準備セミナー 「マナー・面接対策」 就職準備セミナー補講 就職準備セミナー補講 第2回進路意向面接	就職情報誌が到着し始める 企業研究開始 業種の絞り込み	
1月	合同企業説明会 個別企業説明会	就職用写真撮影 企業見学会	資料請求開始	
2月	合同企業説明会 個別企業説明会	就職セミナー週間 ・最新就職情報ガイダンス ・模擬集団面接 ・学内企業セミナー ・筆記試験対策セミナー etc 公務員講座合宿	会社案内が到着し始める 企業の絞り込み	
3月	合同企業説明会 個別企業説明会 県内企業の採用数(大枠)が決定	求人票送付依頼	進路登録カード提出 OB・OG訪問	
4年次	4月	合同企業説明会 個別企業説明会 県内企業採用活動ピーク	公務員講座直前対策スタート 各種公務員採用試験説明会 学内企業説明会	会社説明会への参加 面接・筆記試験 会社訪問開始
5月	合同企業説明会 個別企業説明会 県内企業採用活動ピーク	学内企業説明会		
6月	合同企業説明会 個別企業説明会 県内企業採用活動ピーク 内定出し 公務員採用試験(国、国投、裁判所、労基、熊本県・市)	学内企業説明会		
7月	公務員採用試験(国)			
10月	正式決定			

インターンシップ(職業体験実習)

インターンシップとは、在学中に専攻分野や興味のある業種の民間企業等の職場で実際に行い、自らの就業意識を明確にし、将来の進路決定の参考とするために行うものです。本学では平成10年度から実施しており、今年度も夏休み期間中の8月に、3年生を中心に自治体に29人、民間企業に60名が参加しました。そのうちの1人、古谷博子さん(総合管理学部3年)のレポートを御紹介いたします。

インターンシップを受講して

私は、大学でマスコミ講座を受講したりするなど、前々からマスコミ業界に興味を持っており、今回のインターンシップで希望通りにテレビ局で学ぶ機会を得た時は次の2つのことを1週間のインターンシップでの課題にしました。

マスコミ業界の仕事とは、実際どんなものなのか？
働くということはどのようなことなのか？

3日目に、記者とカメラマンについて実際の取材に同行させてもらうことが出来ました。このことは今回のインターンシップの中で、私が一番衝撃を受けた体験だと言えます。取材中の記者の機敏で無駄のない動き、またわずかな時間での原稿作成、中でも、カメラマンの編集作業には、ただ感動の一言でした。放送までの限られた時間の中で、15分間のテープを1分足らずに編集して行く。プレッシャーは時間が押すことに激しくなり、見ている私たちが息をするのでさえ、ためらわれるくらいの緊張感の中、確実に自分の仕事をこなす、まさに「プロの仕事」でした。実際にその場において、プロの空気を味わうことが出来て、本当に

貴重な体験をすることが出来ました。

当初の課題であった「マスコミ業界の仕事とは？」また「働くということとは？」という2点については、少しではありますがありますが、自分なりの答えを見つけたことが出来たと思えます。自分の想像以上に、仕事は、厳しいものでした。働く時間も長く、責任も重い。自分の考えを持っていないと、すぐに潰れてしまつたのではないかと不安を抱くほどでした。しかし、働く人、自分の仕事に誇りを持っている人の目は、輝いていました。インターンシップ中は、どうしても個性であることから、女性の働く姿に目がいってしまつたのですが、やはり、自分の仕事にプライドを持っていらっしゃる方は女性としても魅力でした。

今回のインターンシップを終えて、私は、働くことによって、自分の魅力を益々高められる仕事に就きたいと強く思うようになりました。このように思えるようになった、今回のテレビ局でのインターンシップは、とても意義のあるものでした。

祥明大 短期研修団報告

平成13年9月1日(土)から9月10日(月)、祥明大 短期研修団を派遣しました。稲川順一教授(文学部)の引率で、12人が参加し、ホームステイや百済文化探訪を通して韓国への理解を深めました。

渡辺 真代

(総合管理学部総合管理学科4年)

韓国は隣国でありながら、どういふ国かほとんど知らず、自分の目で韓国を見、肌で感じたいと思い、この研修に参加した。

研修を通して一番感じたことは、韓国人の日本に対する関心と日本人の韓国に対する関心の温度差である。韓国では中学校で漢字を習い、高校では第2外国語として日本語を選択する学生が非常に多いという話を聞いた。だから学生は

みんな漢字で自分の名前を書くことが出来るそうだ。それに比べて韓国語教育を受けている日本の学生は本当に少ない。

また、歴史教科書、靖国参拝問題等があり、韓国訪問に心配もあったが、快く受け入れ、もてなしてくれた。韓国の人に、韓国の人は親切と言っていると、日本人の方が親切という答えが返ってきた。日本に対して何か期待を持っているように、日本はその期待に応えられるような国だろうかと考えさせられた。

この研修での一番の収穫は、韓国の良い部分をたくさん感じ取ることができて、韓国に対する関心が確実に高まったことである。もっと韓国に関心を持つ日本人が増え、両国の関心の温度差が縮まってほしいと思う。

最後に、このような機会を与えて下さった両国の関係者の方々に心から感謝しています。

耳寄り情報

留学生による外国語(韓国語、中国語)講座が実施されています。留学生とも友達になれますので、興味のある人はぜひ参加して下さい。詳しくは国際倶楽部(研究棟1階)までお問い合わせ下さい。

国際交流講演会

国際交流への関心を高めるため、平成13年12月13日(木)午後2時から講義棟第2講義室で「国際交流講演会」が開催されました。中国茶研究者で香港での起業経験を持つ村山星子さんを講師に迎え、「さあ夢へ進め(シンイブ)〜そこから始める」と題して、イギリスや香港、アメリカでの留学体験や中国茶の魅力についてお話をいただきました。「悩む前に、まず行動に移すこと」、「You can't get everything」何かを選択することは、何かを捨てること」という村山さんに参加者からは活発な質問が寄せられました。

外国人留学生との交流会

平成13年12月12日(水)午後6時から第2学生会館で、外国人留学生との交流会が開催され、60名ほど(うち外国人留学生12名)の参加者たちが、互いに自分の国のことを話し合い、親睦を深めました。合唱部が日本の歌を披露したり、合気道部がデモンストレーションを行うなど、国際色豊かな交流会となりました。

ホストファミリーをしてみませんか?

本学では、外国からの学生を受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。今年5月にアメリカから、6月に韓国からの短期研修生を受入予定しています。期間は4日か

ら10日程度です。応募して下さい方は、韓国及び米国への短期研修や留学に際して、特典を受けられます。詳しくは学生課までお尋ねください。





私たちは、男子4名、女子8名の計12名で活動しています。去年の成績として、7月に福岡で行われた九州地区大会で女子団体3位入賞を果たしました。慣れない決勝リーグに進み九州の強豪チームと対戦し、精神的にも体力的にも辛かったです。会場に来て下さった先輩方や部員の大きな声援を支えにチームで声を掛け合い最後までそれぞれの力を出し切ることが出来ました。そしてこのような成績をあげられたことは、私たちにとても大きな自信につながったと思います。また8月には、日本武道館で開催された全日本大会に出場させていただきました。チームのメンバーにとつて初めての全国大会で、会場の大きさや雰囲気、残念ながらあまりよい結果は残せませんでした。全国の強いチームを見たことや、大きな会場で弓を引いたことは私たちにとても良い経験となりました。これからも部員みんなで楽しみながら、お互いを高めあっている部にしていきます。

全国大会出場

弓道部

本学には、現在、体育系と文化系を合わせて約60のクラブ・サークルがあり、それぞれいろいろな活動を行っています。今年度、全国大会等で活躍した団体を紹介します。



西日本大会でベスト4・国際大会に6名が選抜

軟式野球部

軟式野球部は現在十数人で活動しています。みんな野球が大好きで、とても仲がよいです。少ない人数ですが、昨年の南九州地区での秋季リーグ戦では、持ち前のチームワークで3季ぶりの優勝を果たし、滋賀県の彦根で行われた西日本大会では初戦に勝利し、準々決勝では全日本大会準優勝の強豪校を破り、準決勝では優勝した大学に惜しくも負けはしたものの、ベスト4という成績を残しました。また、昨年熊本で開催された国際大会では、本学から全日本代表に吉田圭一郎が、九州選抜に5名の選手が選抜されました。同大会では、吉田圭一郎がMVPに選出される素晴らしい活躍で、全日本代表の優勝に貢献し、九州選抜の5名もそれぞれの活躍で準優勝へと導きました。現在、新チームで新たな目標である全日本大会出場に向かって日々練習に励んでいます。今後の軟式野球部の活躍に期待して下さいます。

九州吹奏楽コンクールで銅賞受賞

吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、音楽が大好きな仲間が集まったとても仲のいいサークルです。昨年は県吹奏楽コンクールで銀賞を受賞、九州大会の推薦団体に選ばれ、長崎で開催された同大会では銅賞を受賞しました。きつい練習や慣れない土地での大会への出場は大変でしたが、この大会に出場したことで演奏のレベルもずいぶん上がり、精神的にも一回り強くなれたような気がします。また素晴らしい演奏をたくさん聞くことができて、とても有意義な体験でした。現在の人数は4人（2年生以下）と少ないですが、熊本大学、崇城大学、九州看護福祉大学と協力し合い、各大学の定期演奏会や行事に参加するなど、積極的に活動しています。このような他大学の吹奏楽部との交流は、交通手段など大変なことも多いですが、私たちにとても良い刺激になっています。また、今年6月にはこの4大学が合同で行うポップスコンサートを企画し、実現に向けてみんなで頑張っています。



第37回白亜祭の開催

去る11月10日(土)、11日(日)に、本学の学園祭「白亜祭」が開催されました。今年のテーマは「円満、良、まとまり」という意味が込められた。両日も晴天に恵まれ、盛況のうちに終了しました。

各サークルは大学生活における日頃の活動成果を発表したり、模擬店で大声で呼び込みをしたりと、団結しながら白亜祭を成功に導きました。また、ステージ上では歌、ダンス、ファッションショーなど多彩な催しに来場者から大きな拍手が送られました。



管理栄養士養成施設の 課程をスタートします。

本学の環境共生学部 食・健康環境学専攻が、平成14年1月21日付で文部科学大臣及び厚生労働大臣から「管理栄養士養成施設」の指定を受けました。

指定申請の経緯は、同専攻は今まで、栄養士養成施設であり、栄養士の免許及び管理栄養士国家試験の受験資格が取得可能でした。しかし、近年、生活習慣病が国民の健康面における大きな課題となっていることを受け、管理栄養士制度を見直すために、栄養士法が平成12年4月に改正され、平成14年4月から施行されることになりました。この改正により管理栄養士国家試験を受けるためには、栄養士養成施設を卒業後1年以上の実務経験が必要となり、そこで、同専攻では、従来と同様の条件で実務経験なしで管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができるよう、両省に対し指定申請を行ってまいりました。

今後は、高度な専門的知識及び技術を持った質の高い管理栄養士を養成していきます。

なお、適用は平成14年4月以降の入学者からとなります。

環境共生学部大学院設置検討・準備委員会が できました

昨年6月に「環境共生学部大学院設置・検討準備委員会」が発足しました。

環境共生学部は、自然環境と人間活動の共生を目指した自然科学系の学部として平成11年度に設置されたところです。

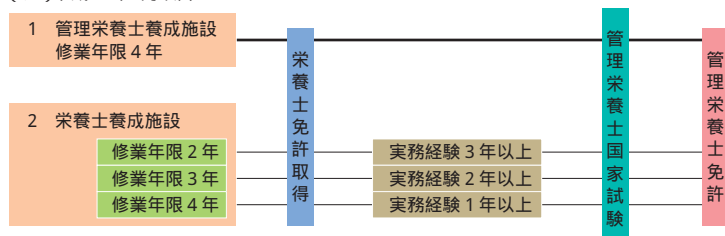
委員会では、この環境共生学部を基礎とする大学院研究科を平成15年4月に設置すべく、今年6月に文部科学省へ設置認可申請を行う準備をしております。



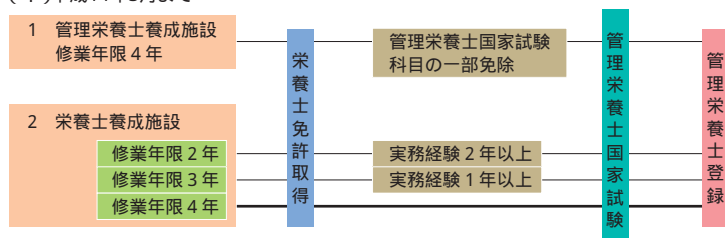
平成12年4月に完成した「環境共生学部新棟」

栄養士法改正による管理栄養士国家試験の受験資格の見直しイメージ

(ア)平成14年4月以降



(イ)平成14年3月まで



本学は平成14年3月まで(イ)の2の修業年限4年の「栄養士養成施設」であったが、平成14年4月より(ア)の1の「管理栄養士養成施設」となる。

【新刊図書等の御案内】

専門図書等	丸山真男「近代主義」の射程 目で学ぶ知的財産権法(生駒正文 他) 家族社会学(木下謙治) 玉塵抄の語法(山田潔) 地球環境外交と国内政策(蟹江憲史) 行政法の発展と変革(上・下) 小早川光郎 他) 認知科学モノグラフ(日本認知科学学会編) その他
文藝関係	鯨の哭く海、中陰の花、愛の領分、邪悪な花鳥風月 その他
ビデオテープ	仏教伝来と聖徳太子:飛鳥・白鳳時代 運慶と快慶:鎌倉時代 華麗なる王朝の美 北の国から(1~8巻) 虐殺の村を逃れて:ボスニア その他
D V D	シックス・センス ミッション・インポッシブル マトリックス その他

入館する場合は学生証(又は図書館利用者証)を係員に提示ください。視覚資料(ビデオテープ等)は館外貸出しはできません。貸出図書については返却期限を厳守ください。

附属図書館からのお知らせ

最近配架しました図書等を御案内いたします。紙面の関係で一部しか紹介できませんがこの他にもたくさん配架しております。大いにご利用ください。

休講・補講情報の 携帯電話用ホームページ

J-PHONE、
NTT DoCoMoのみでの提供

平成13年4月から携帯電話(J-PHONE、NTT DoCoMoのみ)に対応したインターネットホームページによる休講・補講情報の提供を始めました。あくまでも補助的なものとしての提供ですが、学内掲示板の再確認など、必要に応じてお使いください。なお、アドレスは次のとおりです。

i-mode用
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/kyoumu/i/index.html>
j-sky用
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/kyoumu/j/index.html>

名誉教授

*平成13年6月28日授与
福田 益和 氏
(元文学部長)

死亡叙位

平成13年9月13日発令
八淵 龍成 氏
(熊本女子大学名誉教授 元文学部長)



Schedule(2002.4~2002.9)		
月	日	内容
4月	月内	外国人留学生との交流会
	上旬	日本育英会奨学金説明会
	上旬	4年次就職ガイダンス
	上旬	公務員試験説明会
	中旬	2~4年次授業料納付書送付
	下旬	1年次授業料納付書配布
	3日	4年次健康診断(～5日)
	4日	授業公開講座開講式
	6日	入学式(於: 県立劇場)
	8日	新入生オリエンテーション(・9日)
	10日	在学生オリエンテーション
	11日	授業開始
	30日	授業料第1期分納期限
5月	中旬	米国・モンタナ州立大学ピリングス校短期学生研修団受入(10日間)
	中旬	1~3年次健康診断
6月	上旬	インターンシップ説明会
	中旬	後援会評議員会及び総会
	下旬	韓国・祥明大高校短期学生研修団受入れ(～7月上旬までの10日間)
7月	上旬	3年次就職プレガイダンス
	上旬	夏休み直前講演会
	8日	3年次進路個人面談(～26日)
	中旬	公務員ガイダンス(3年次以下)
	中旬	低学年向け就職プレガイダンス 26日 前期試験(A日程、～8月2日)
8月	月内	オープンキャンパス
	上旬	インターンシップ(5日間)
	上旬	企業採用状況(追加・二次募集)調査
	5日	夏季休業(～9月23日)
	5日	授業公開講座受講者募集(後期)(～30日)
	下旬	米国・モンタナ州立大学へ短期留学生派遣(1年間)
下旬	祥明大高校への短期研修団派遣(～9月上旬までの10日間)	
下旬	インターンシップ(5日間)	
9月	中旬	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科 博士前期課程: 秋季)
	24日	前期試験(B日程、～30日)
	30日	授業料第2期分納期限

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

● テープライブラリをご存じですか?

外国語教育センター2階のテープライブラリは、外国語を学びたい学生が自由に自習できる施設で、ビデオデッキ(キャプション付きビデオも視聴できます)、カセットデッキ、LD、パソコン等の機材を備えています。

約5,000本のビデオ、カセット、CD、CD-ROM等の語学関係ソフトを揃えており、またCNNの視聴もできます。

授業の空き時間などに、ぜひ利用して下さい。



外国語教育センターからのお知らせ

● 自由講座の受講者を募集します!

外国語教育センターでは、本学学生の外国語コミュニケーション力の向上を図るため、正規の講義以外に自由講座を開講しています。また、一部の講座については、社会人にも公開しています。

授業で習ったことをさらに深めたい方、外国事情にも興味のある方等、どなたでも受講することができます。

■ 平成14年度外国教育センター自由講座 開講予定

	講座名	開講期間	時間
1	英 Philosophy	前期	月曜4限
2	(未定)	前期	
3	語 (未定)		後期
4	自 Introduction to the Internet	前期	月曜4限
5	由 English & Spanish		後期 月曜4限
6	講 TOEIC対策(基礎コース)	通年	水曜4限
7	講 TOEIC対策(応用コース)	通年	金曜4限
8	座 英検2級対策	前期	水曜5限
9	英検準1級対策		後期 水曜5限
10	ドイツ語自由会話	通年	木曜4限
11	フランス語自由会話	通年	火曜5限
12	中国語自由会話	通年	金曜4限

■ 受講申込期間

前期: 4月8日(月)～4月19日(金)

後期: 7月予定

■ 受講料 無料

上記4,5以外の講座は授業公開講座として社会人の方の受講を認めております。但し、前期及び通年科目の社会人の方の募集は既に終了しました。また、社会人の方の場合、授業公開講座実施規定に基づいた受講料をお支払いいただく必要があります。

● TOEICを受験しよう!

TOEIC(トイック Test of English for International Communication)は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテストです。TOEICには、各団体が日程や場所を自由に設定して試験を行うことができる団体特別試験制度があり、外国語教育センターでは、この制度を利用して、年2回、学内でTOEIC IP(団体特別試験)を実施しています。

このTOEIC IP(団体特別試験)は、公開テストより安価に(公開テストの受験料は6,615円ですが、この団体特別試験は3,150円で受験することが出来ます)、そして場所も本学で受験することができますので、就職活動に活用したい人や、現在の英語力を測定したい人は、ぜひ受験してください。

■ 平成14年度外国教育センターTOEIC IP実施予定

	試験実施日	試験場所	受験申込期間	受験料
第1回	6月22日(土)	学内	5月13日(月)～6月12日(水)	3,150円
第2回	12月14日(土)	学内	11月5日(火)～12月3日(火)	3,150円

○ 問い合わせ先: 外国語教育センター 2階 LL準備室

(注) いずれも期日等変更となる場合があります。詳細は後日、掲示等によりお知らせします。

驥^き足^{そく}を展^のぶ

このことわざは「才能のある人がさらにその才能を伸ばす」ことを意味します。熊本県立大学という世に誇れる大学から社会人として飛躍せんとする諸君にもっともふさわしい金言と考え、引用しました。

ただ、大学での教育は自立して考えるための基礎理論が中心ですので、これから遭遇する多くの難問に正鵠を射るには、学んだ知識を背景に応用・展開する能力を身につけることが不可欠です。この能力は各人の学習に対する意欲と密度に依存します。折角のチャンスを生かすも見過ごすも学習次第です。諸君の力なら、小さな努力が大きい成果をもたらすことも期待できます。

このため、大学は常に門戸を開いています。卒業生の訪問は本人の目的成就だけでなく、在校生の多くに知的刺激を与えます。いつでも扉を叩いて下さい。

グローバルな時代、駿馬のように日本を、そして世界を駆け巡られることを期待しています。



熊本県立大学学長 菅野 道廣

プロフィール／

久留米市出身。昭和37年、九州大学大学院農学研究科博士課程修了。専攻は食品機能学、脂質栄養学。九州大学教授を経て平成9年4月本学に着任。生活科学部長、環境共生学部長を経て平成12年9月、学長に就任。



熊本県立大学

発行:熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929(代) FAX 096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

ご意見・感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたく考えておりますのでよろしくお願いたします。

〒862-8502(住所記載不要)
熊本県立大学事務局総務企画課
「春秋彩」担当行
FAX:096-384-6765
E-mail:suki@pu.kumamoto.ac.jp

13総 熊県大

004



古紙配合率100%再生紙を使用しています

